

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 宮坂 大介

主査 武蔵 学
審査担当者 副査 平野 聡
副査 白土 博樹
副査 藤堂 省
副査 岩永 敏彦

学位論文題名

食道癌に対する内視鏡手術の有用性に関する臨床的検討

本論文では、食道癌に対する内視鏡手術の有用性について、開胸・開腹手術例を歴史的対照群として術中・術後成績、合併症発生頻度、病理学的所見、累積生存率などを比較すると共に、QOL からみた内視鏡手術の評価が後方視的に検討された。その結果、内視鏡手術群では術中出血量、術中・術後輸血施行例数、術中・術後輸血量、手術部位感染率、吻合部狭窄率、術後気管内挿管日数、術後入院日数が有意に少なく、両群の3年生存率は各々71.5%、36.7%、5年生存率は各々61.5%、26.7%と内視鏡手術群で有意に良好な結果が得られた。一方、内視鏡手術例に対する呼吸機能検査およびSF-36日本語版を用いたQOLアンケート調査では、肺活量は術後3か月には術前に比し有意に低下したが、術後12か月には術前レベルまで回復した。またQOLについても国民標準値との間にほとんど有意差を認めず、以上から食道癌に対する内視鏡手術は標準治療となり得ると結論している。

審査会での質疑応答では、白教授より本研究が開胸・開腹手術を歴史的対照群とした後方視的研究であること、およびQOLアンケート調査で対照を国民標準値としたことの限界、藤堂教授からは内視鏡手術群で有意に生存率が高い理由、岩永教授からは内視鏡手術手技の習得の難度について、平野准教授からは助手の左手を胸腔内に挿入する手術法について、武蔵教授からは内視鏡手術と開胸・開腹手術の前方視無作為比較試験の有無、術後免疫能の比較研究についての質問があった。いずれの質問に対しても申請者は本研究で得られた知見、および参考文献を引用して的確に回答した。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院過程における研鑽や取得単位などとも併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと判定した。